

◇二〇〇七年〜二〇一六年◇

川柳エッセイ

三木 秀治



日常の1コマから世界情勢まで

様々な出来事を切り取った川柳エッセイ

日々の生活から生み出される

コミカルでシニカルな川柳たちの総集本

はじめに

「川柳」は、俳句と同じ五七五の十七文字という、世界で最も短い詩の形式です。俳句は、江戸の元禄時代（十七世紀）に芭蕉によって確立された文学です。俳句は、季語や切れ字を使って、日本の四季おりおりにおける感情の表象を通じて思いを表現します。「季語」という物に寄せて思いを述べる「寄物陳思」、これが俳句の原点とも言えるでしょう。

一方、川柳はやはり江戸時代、十八世紀に活躍した柳井川柳の名前から「川柳」と名付けられた文芸が確立しました。季語や切れ字がなく、文体も口語調で「うがちおかしみ かるみ」を特長として、主に、人情の機微や心の動きを表現する文芸です。サラリーマン川柳などで広く親しまれるようになりました。

近年は、草花や野菜をはじめとする食材なども季節感がなくなり、街中も暑い寒い以外季節を感じることが少なくなっています。しかし、人間の感情はいつの時代もそれほど大きく変化することもなく、江戸時代の古川柳などを読んでも共感するところは多くあります。例えば、こんな句が「誹風柳多留」に載っています。

孝行のしたい時分に親はなし

本降りになつて出ていく雨宿り

寝ていても団扇のうごく親心

川柳は、そういう意味でテーマを決めて募集することがよくあります。例えば、「バレンタインデー」とか「母の日」、「花見」などです。

この「川柳エッセイ」は、著者が東京中小企業家同友会という中小企業の組織のある機関誌に二〇〇七年二月からほぼ毎月投稿したエッセイを加筆、修正したものです。その時々々の時事問題に触れたものもありますが、概ねその季節ごとの話題をテーマにしてエッセイ仕立ての川柳となっています。

川柳を通じて少しでも楽しい時間を共有できれば幸いです。

二〇一六年五月吉日

三木 秀治

目次

はじめに	1
二〇〇七年	4
二〇〇八年	20
二〇〇九年	41
二〇一〇年	62
二〇一一年	86
二〇一二年	107
二〇一三年	131
二〇一四年	156
二〇一五年	179
二〇一六年	200

二〇〇七年二月

春の足音が少しずつ大きくなったと感じるのは気のせいでしょうか？
まだまだ冷たい風に懷具合もなんだか寂しそうですね。

・春風を 吸い込みたいが 花粉症

二月になるとスギ花粉の季節。花粉症の人は受難の季節です。

・春風が 運ぶ景気は 皆に吹く（福）

春は季節の移り変わりのなかでも寒さから暖かさへという変化ですので、なんだか景気も良くなるような気分にもなります。

気分だけで世の中はそう甘くないです。

・春風は 懷だけを 避けて吹き

伊吹文部科学相の「大和民族が日本の国を統治してきた・・・」という発言の真意が問題になっています。以前もある大臣が「日本は単一民族」と発言してアイヌ民族から抗議されたことがあります。

この記事をみていて次の有名な歌を思い出しました。

『敷島の大和心を人間はば朝日に匂ふ山さくら花』（本居宣長）

桜は散り際がいいといつてもただ汚く散るのもしやくです。

・散り際の花見心を人間はば 妻も見放すちよい不良（わる） おやじ
金かけてちよい悪ふつても誰も相手にしてくれませんか！残念！

と言われそう（古い！）。これから引退する団塊の世代の行く末が心配ですが。

・団塊よ みんなで散れば 怖くない

ぐらいの心意気があれば乗り切れる・・・かも。

世知辛い世の中ではありますが、少ない小遣いで遣り繰りできれば人生楽しみもあるというもの。
安酒であたたまる術を知っているのが本当のちよいわるおやじです。

・割勘の 下戸（げこ） 友誘う 旨い店

旨い店見つけたんだけど、などと声を掛けられたら要注意。

野郎だけで飲むのは色気無いというので女子社員もさそって、

・OLに 割勘させる 口上手

ホスト顔負けで女子社員をおだてて最後は割勘。となればいいのですが、最後は結局奢らされるのがオチ。奥さんに小遣い上げてもらえる日はいつかくるのでしょうか。

ちよい悪オヤジの嘆きはまだまだ続く・・・

二〇〇七年三月

若者の引きこもりとキレ易さが問題になっています。

ちよつとしたことですぐキレる人にはこんな諺を。

・ 氣に入らぬ 風もあろうに 柳かな

柳に風でなんでも受け流しせるには人生経験が必要かも？

若者は何より目立ちたがりなので柳は向かないですね。

・ 見に行くと いふ人もなき 柳かな（芭蕉）

主役になりたいからといって時と場所を考えないと嫌われますよ。

・ オレオレと アフターファイブに 目を醒ます

遊びのエネルギーの10分の1でも仕事で発揮してほしいものです。

遊びといえ、私は一度も経験の無い合コンですが、もてるにはかなりの「スキル」がいるようです。

・ 合コンの サバ見得ウソで 今の妻

最初に好感を持つてもらえばちよつとしたウソは許してくれるはず？

「鯖を読む」というのは魚市で鯖を数える時、わざと急いでその数をごまかしたのが語源とか。

・ 合コンの お持ち帰りは 聞き上手

もてる男は聞き上手。口下手で話ができなかっただけとか？

メールが普及しているので好感の持てるメールも重要なスキルです。

・ 出合い系 源氏にメール 書かせたい

会ったことの無い女性を手紙（メール）で口説くのは光源氏にまかせた方がよいかも。それとも下手な文章でも真心がこもっていれば何とかなるの精神でぶつかりますか？

・ 口説かれて 愛は後から ついてくる

結局はいつももてるのはいい男だけ。TVドラマも

・ 視聴率 結局やつぱり いい男

筋書きや脚本なんてどうでもいいの。キムタク見せて。ということです。

ドラマと言えば女子社員は些細なことで盛り上がる能力があります。

・ 「秘密よ」で ドラマに仕立てる 昼休み

オジサンはここでも仲間はずれ、合コンでも花と散る運命です。

でも桜は散り際にこそその魅力があります。

散って何ぼの意気込みでがんばりましょう。

・ 散ればこそ いとど桜はめでたけれ

憂世になにか 久しかるべき（伊勢物語）

あとがき

私のつたない川柳エッセイ、楽しんでいただけたでしょうか？

俳句・川柳を作る、作句は脳トレに効果があるといわれています。最近記憶力が悪くなった、ボケが始まったか？とご心配の読者のみなさま、是非作句に挑戦してみてくださいいかがでしょうか。

川柳は五七五の十七音というしぼりだけの、非常に手軽に作れる詩です。心に残る思い出として、頭の体操として、なにかの記念に贈る言葉として、さまざまな場面で楽しんでいただければ幸いです。

私の川柳エッセイはまだまだ続きます。またお会いできることを、みなさまのご多幸とともに願っております。

二〇十六年五月吉日

三木 秀治

川柳エッセイ

2016 年 5 月 25 日 第 1 刷発行

著 者 三木 秀治

発 行 川崎インターネット株式会社

〒 213-0001 神奈川県川崎市高津区溝口 1-17-20

TEL 044-850-4600 FAX 044-811-4606

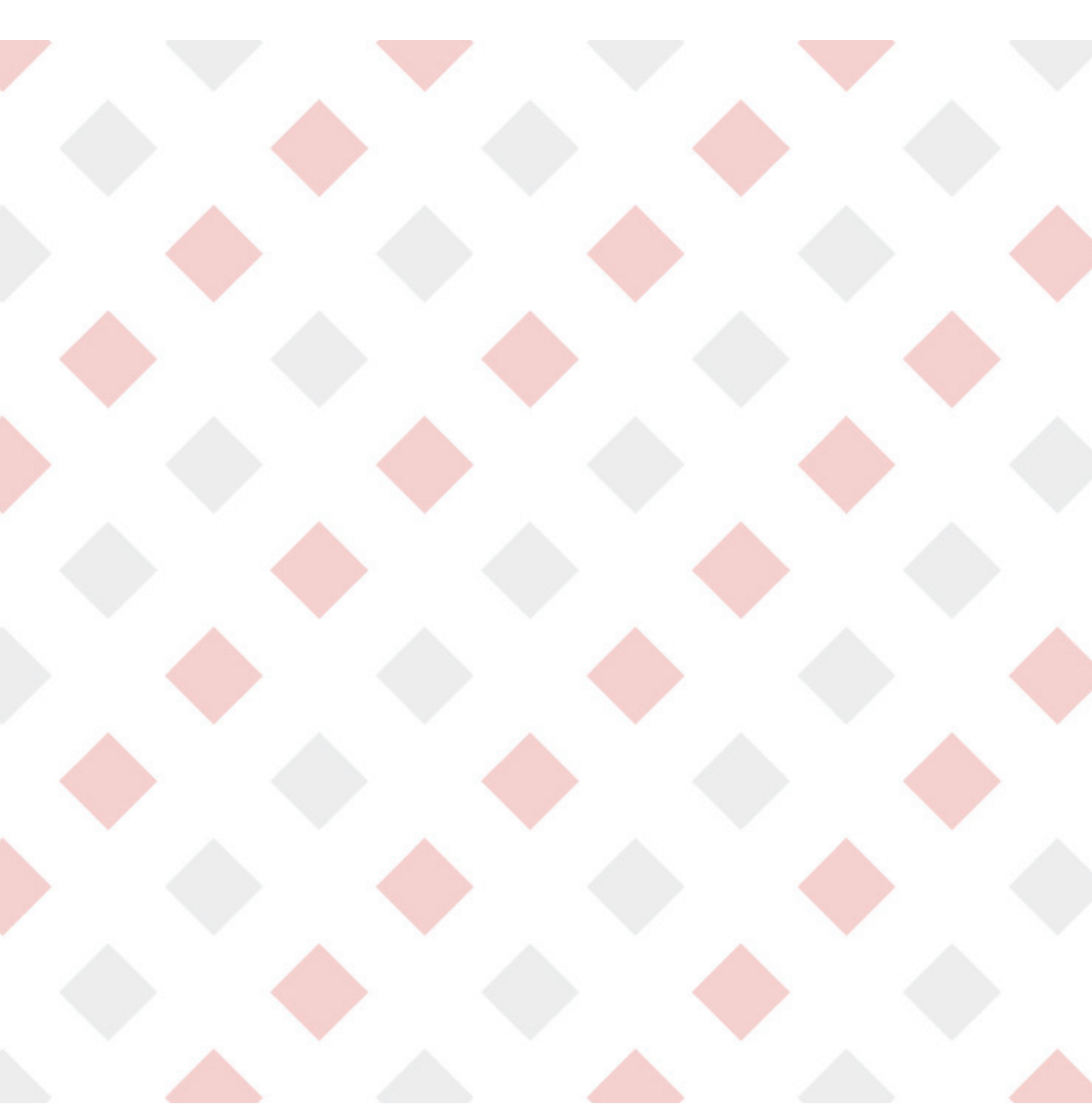
<http://www.kinet.or.jp/>

印刷・製本 有限会社 京 文 社

〒 112-0012 東京都文京区大塚 6-32-5

TEL 03-39436-4231 FAX 03-3943-4417

定 価 本体 1000 円＋税



ISBN978-4-906836-02-4

定価 本体 1000 円＋税